中国秋季リーグ戦結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様
（同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。）

いつも大変お世話になっております。
広島大学体育会バレーボール部です。

10/2～11/3 にかけて、中国秋季リーグ戦が開催されました。
広島大学の結果は、以下のとおりです。

（男子）
vs 東亜大学
●0-3（19-25、16-25、19-25）
vs 福山平成大学
●0-3（13-25、19-25、18-25）
vs 広島経済大学
●0-3（26-28、19-25、16-25）
vs 広島工業大学
○3-0（26-24、25-16、25-12）
vs 広島文化学園大学
●0-3（20-25、18-25、23-25）
vs 東亜大学
●0-3（16-25、20-25、21-25）
vs 福山平成大学
●0-3（14-25、16-25、19-25）
vs 広島経済大学
○3-0（25-18、25-22、25-16）
vs 広島工業大学
○3-0（25-18、25-23、31-29）
vs 広島文化学園大学
●0-3（18-25、21-25、21-25）

＜男子 1 部最終結果＞
1 位 福山平成大学 9 勝 1 敗

2 位 東亜大学 9 勝 1 敗
3 位 広島文化学園大学 4 勝 6 敗
4 位 広島経済大学 3 勝 7 敗
5 位 広島大学 3 勝 7 敗
6 位 広島工業大学 2 勝 8 敗

＜入替戦＞
vs 島根大学（2 部 2 位）
○3-2（30-28、17-25、14-25、25-21、17-15）

（女子）
vs 山陽学園大学
○2-0（25-21、25-19）
vs くらしき作陽大学
○2-0（25-23、25-23）
vs 島根大学
●1-2（25-21、19-25、19-25）
vs 山口大学
●0-2（10-25、16-25）
vs 周南公立大学
●0-2（21-25、16-25）

＜女子 2 部最終結果＞
1 位 島根大学 4 勝 1 敗
2 位 周南公立大学 3 勝 2 敗
3 位 山口大学 3 勝 2 敗
4 位 くらしき作陽大学 3 勝 2 敗
5 位 広島大学 2 勝 3 敗
6 位 山陽学園大学 0 勝 5 敗

＜入替戦＞
vs 広島修道大学（CL2 位）
○2-0（25-20、25-16）

（中国学連 HP）
https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-aki-top.html

今季のリーグ戦は、今までになく男女ともに星取り合戦となり、最終日が始まる時点で、男子 1 部は、平成、東亜以外の全チームに 3 位の可能性があり、女子 2 部は、暫定 1 位の広大でも 5 位の可能性がある大混戦でした。結果としては、広大男子は春から 1 勝を上乗せして順位は変わらずの 1 部 5 位、広大女子は春と同じく 2 勝止まりで順位は一つ下げて 2 部 5 位となりました。入替戦では男女ともに残留を死守したものの、男子は入替戦巧者の島大にフルセットのデュースまで迫られ、女子は修道の 1 年生に進徳高校出身をはじめとする好選手が揃い、下位リーグとも力差がほぼなくなってきたことを強く印象付けられました。

これまで、下位リーグや下位チームは一目で分かるほどの実力差がありましたが、効果的な練習やチーム運営に関する情報が SNS などで簡単に手に入ることになったことで、リーダーシップと結束力があれば経験をカバーして結果まで残せる時代になっています。逆に言うと、それらが欠けると取り戻すことができないほど水をあけられることになり、他のチームでは中心選手の引退によって大きく後退した、またはこれから大きく後退するチームが出てくる可能性も感じました。その点では、広大は環境的に優位な状況にあると言うか、負けてはいけないほどのメンバーが揃っていると思いますので、来季は男女ともに混戦のリーグ戦から一歩前に抜け出して欲しいと思います。

男子は、荒削りな部分が少しずつ整ってきて、サイドアタッカーの田代（1 年・愛知・名東高校）は筋力が身になり、動きに素軽さが出てきています。対角の北村（2 年・兵庫・須磨翔風高校）も、勝負所での 1 本を深く踏み込んで打ち切ることができるようになり、チームとして欲しい 1 点を何度も取ってくれました。西川（2 年・滋賀・虎姫高校）も含めて、速い平行トスを決めた場面がそれぞれあったと思いますが、高いブロッカー相手には速さが必ず有効ですので、キレのある攻撃を今より増やせると、より戦いやすくなると思います。

センター線は春と比べると中々思うような攻撃ができませんでしたが、川村（2 年・東京・日本大学第三高校）の引き出しの多さには本当に頭が下がりました。自分の胸の高さくらいのボールでも、瞬時に反応して軟打に切り替えたり、ブロックに当ててマイボールにしたりと、心身ともに切り替えの早さがずば抜けていました。得点数や得点率はもしかすると春の方が高かったかもしれませんし、不完全燃焼の気持ちもあったかもしれませんが、チームの勝利への貢献面では間違いなく過去一番でした。リベロチェンジでベンチに下がっても常に試合と会話が出来ていて、準備を怠らない姿勢が勝ち星を一つ増やすことにつながったように感じます。来季に向けては、この勝ち星をさらに一つ、二つ増やすために、自分が出来ることを積み重ねて欲しいと思います。

女子は、開幕戦と入替戦のみの感想ですが、ボールに触れるインパクトの瞬間に、呼吸が止まって力んでしまっている選手が多く、一つ一つのプレーに余分なエネルギーを使っているように思います。エネルギーは無限ではないので、相手にレシーブ力があるとラリーが長くなって、ラリー負けにつながる根本的な一つの要因になっています。3 本目を打てる選手が揃っていても、ワンパターンではさすがに勝ちようがありません。男子と違ってチーム全体にキレや引き出しがほぼない状況で、個人のテクニックに委ねられている割合が非常に大きくなっていますので、チームとして、組織として戦うためにどうすれば良いか、チームをゼロから作り上げる気持ちで一新を図って欲しいと思います。

今年は広島県インカレが開催中止となり、4 年生の岩永（長崎西高校）、大嶋（和歌山・桐蔭高校）は今大会をもって引退となりました。終盤は人数が揃わず、時間も取れずに難しい時期だったと思いますが、その分、個がしっかりして、4 年生にとっても 3 年生以下にとっても、次のスタートが切りやすい環境を残してくれました。4 年生にとっては次のステージに向けて、新チームにとっては来シーズンに向けて、一歩目がもう既に踏み出せていることは実は一番大切なことだと思っています。上級生から受け継いだものを時代に応じて柔軟に対応する、割り切る力は、前に進むためには欠かせない能力ですので、上手くいかないことにも前向きに捉えて、それぞれの歩みを進めて欲しいと思います。

秋季リーグ戦では、同窓生をはじめとして会場その他で多くの方々にご声援を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。
今年最後の大会、全日本インカレは 12/1 から東京都で開催され、広島大学男子は甲南大学と対戦します。

12 月 1 日（火）駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 H コート第 4 試合（16 時頃開始）
1 回戦 vs 甲南大学（関西学連 1 部 9 位）
（駒沢オリンピック公園総合運動場アクセス）
https://www.tef.or.jp/kopgp/access.html
（チケット等については全日本学連ホームページをご確認ください）※現時点では未発表
https://volleyball-u.jp/

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。